

第22回放送番組審議機関 議事概要

■開催年月日：平成29年7月19日（水）

■開催場所：ブロードキャスト・サテライト・ディズニー株式会社 会議室

■Dlife放送番組審議機関審議委員（平成29年7月19日現在）：

北村みどり（三宅デザイン事務所 代表取締役社長 21_21DESIGN SIGHT 代表取締役社長）

齊藤裕人（日本大学芸術学部映画学科教授）

中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

早見優（歌手）

ピーター・バラカン（ブロードキャスター）

湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）

吉田知子（オリコン株式会社経営企画本部 広報部長）

四方田浩一（映像メディア総合研究所 代表）

*あいうえお順、敬称略

■出席した委員（敬称略）：

齊藤裕人（日本大学芸術学部映画学科教授）

中村伊知哉（慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授）

ピーター・バラカン（ブロードキャスター）

湯川れい子（作詞家・音楽評論家、エッセイスト）

吉田知子（株式会社oricon ME 広報部 元『オリ★スタ』編集部編集長）

四方田浩一（映像メディア総合研究所 代表）

*あいうえお順、敬称略

■議題：

・視聴者からの問い合わせ状況報告（平成29年4月～平成29年6月分）

・6月と7月編成プランについて

・番組審議（作品紹介とディスカッション、プロモーションの紹介）

<審査番組>

・「コード・ブラック 生と死の間で」日本語吹替版 第1話

・「グッド・ワイフ」日本語吹替版 第1話

・「Chuck／チャック」日本語吹替版 第1話

■議事概要：

○平成29年4月～平成29年6月までに、カスタマーサービスに寄せられた問い合わせ状況について、入電者の男女比率、年齢層、視聴者からの問い合わせや要望、また再放送の要望が高か

った番組について報告され、確認された。

○7月編成プランについての説明が、以下の3つのポイントに沿って説明され、理解された。

1. 海外ドラマの7月の編成について

Dlifeで人気を博するドラマ「マーベル エージェント・カーター」「NCIS ネイビー犯罪捜査班」「西海岸捜査ファイル ～グレイスランド～」 「Major Crimes ～重大犯罪課」「ER緊急救命室」のそれぞれの新シーズンがプライムタイムに続々登場することが説明された。

2. 映画の劇場公開と連動した特別編成

- ① 7月1日全国ロードショー「パイレーツ・オブ・カリビアン／最後の海賊」の公開を記念し、ジョニー・デップ主演の「ローン・レンジャー」を6月24日に放送したことが説明された。
- ② 7月15日全国ロードショー「カーズ/クロスロード」の公開を記念し、「メリダとおそろしの森」「レミーのおいしいレストラン」「モンスターズ・インク」を3日間連続で放送する特別編成「もっと！ディズニー／ピクサー 3デイズ」を展開。番組中、クイズに答えて応募するプレゼントキャンペーンも実施したことが説明された。
- ③ 8月11日全国ロードショー「スパイダーマン・ホームカミング」の公開でマーベル作品が注目される時期に、映画「アメイジング・スパイダーマン」を7月14日に放送したことが説明された。また、今後、「スパイダーマン・ホームカミング」の特別紹介番組の放送が予定されていることが紹介された。

3. 充実したアニメーション・シリーズの新作ラインナップ

- ① 7月に世界最速放送で期待される日本で製作されたオリジナル・マーベル・アニメーション「マーベル フューチャー・アベンジャーズ」の放送が開始され、そのプロモーションとしてマーベル・エンターテインメント社のバイスプレジデントが来日し、小学校で特別授業を実施したこと、またコミックに原点回帰したアメリカ製作のアニメーション「マーベル スパイダーマン」がアメリカ本国に先駆け、世界最速で放送されることも紹介され、審議委員から関心が持たれた。
- ② ディズニー・チャンネルで人気のアニメーション「アバローのプリンセス エレナ」、ディズニーXDで放送され話題の「ピクルスとピーナッツ」がDlifeに初登場となり、充実した夏休みの子供向けの編成であることが説明された。

○審議委員からは、事前視聴された番組に対し、それぞれ以下のような意見や感想が寄せられた。

ー 「コード・ブラック 生と死の間で」第1話について、「主役のオスカー女優のマーシャ・ゲイハーデンを始め、実力派の役者による、リアリティのある緊迫した医療現場をテンポ良く描いた、大変見ごたえのあるドラマである。また、脚本が素晴らしく、全ての診療科目、教育、マネジメント、家庭、多様な人種など様々な要素が盛り込まれている面でも興味深く、覚悟をもって覚悟をもって鑑賞するタイプの本格的なドラマである。」といった高い評価が寄せられた。

ー 「グッド・ワイフ」第1話について、「主演のジュリアナ・マルグリースの快演に共感を持って、一流スタッフがてがけたことにより、安心して楽しめ、今後も見続けたいと思うドラマである。」という高評価と賛辞が参加した全審議委員から寄せられた。

ー 「Chuck／チャック」第1話について、デジタルの世界を描いた独特な作品性に対し、審議委員の好みが半々に分かれたものの、全審議委員より「何も考えずに気楽に見られる、楽しいドラマである」という好評価が寄せられた。

以上